

スケジュールについて

- ◆少しでも早く整備を進めてほしい。
- ◆道路の完成はいつ頃になるのか？

早期の整備を目指します。事業化については、2020年代初頭を目標としています。また、道路の完成については事業化後、少なくとも10年は要すると見込んでいます。

図面の閲覧について

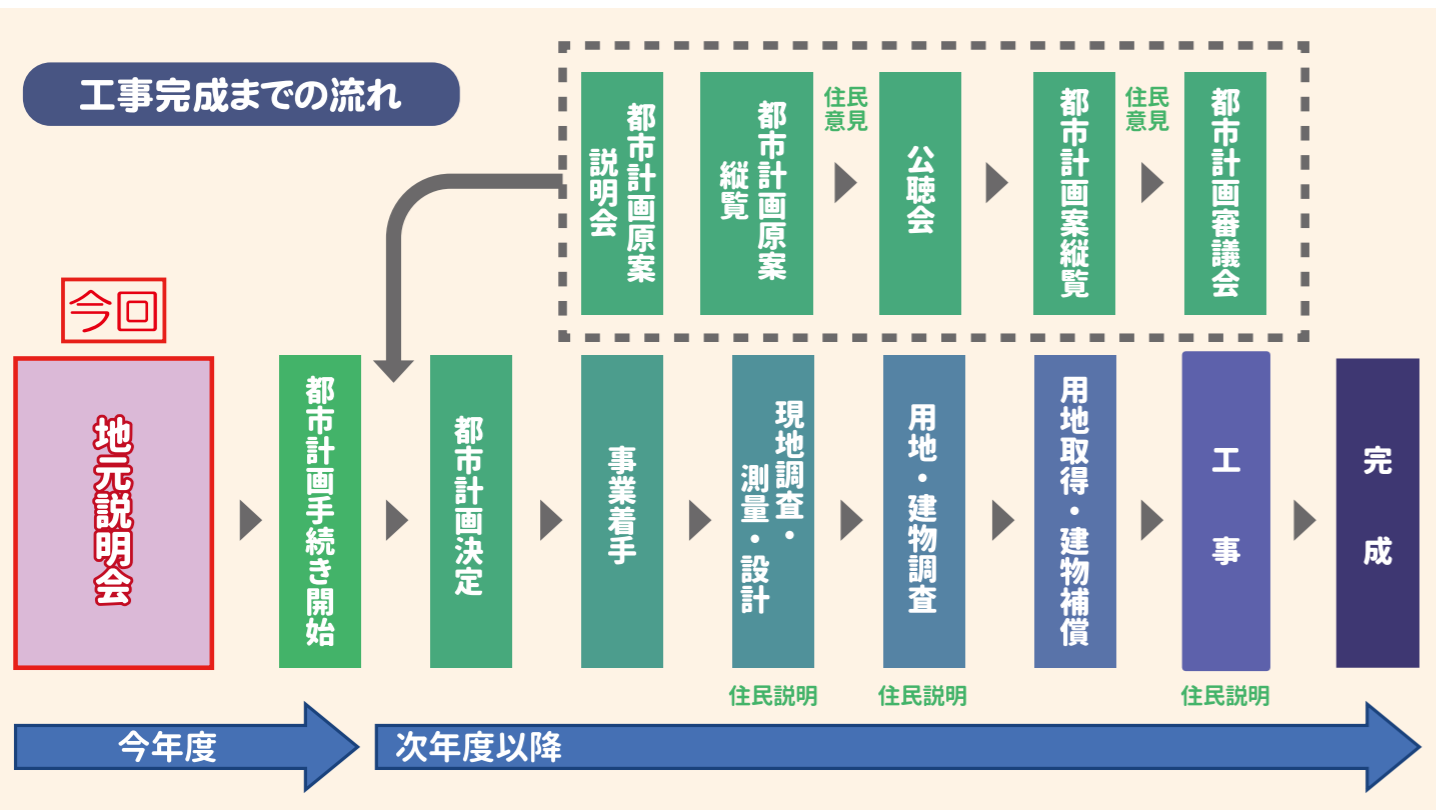
- ◆詳細なルートがわかる資料を配布してほしい。

詳細な道路計画案を示した図面は、松江合同庁舎 4 階の松江県土整備事務所都市整備課にて平日（開庁日）9:00～17:00の間、どなたでも閲覧できます。

4. 今後の予定

今回いただいたご意見に対する検討結果などを秋から冬にかけての地元説明会（次回説明会）にて報告する予定です。

次回説明会の結果などを踏まえ、都市計画の決定手続きを行い、2020 年代初頭での事業着手を目指しています。



これまでの意見交換会の開催記録やアンケートの結果などは島根県ホームページに掲載しています

松江北道路 検索

《お問合せ先》

■島根県 松江県土整備事務所 土木工務部 都市整備課
TEL: 0852-32-5747 E-mail: matsuekitadouro@pref.shimane.lg.jp

■松江市 都市整備部 国県事業推進課
TEL: 0852-55-5626 E-mail: kuniken@city.matsue.lg.jp

皆さまのご意見をお寄せください

※詳細な道路計画案を示した図面については、松江合同庁舎（松江市東津田町1741-1）4階の松江県土整備事務所都市整備課にて、平日（開庁日）9:00～17:00の間、どなたでも閲覧することができます。

地域高規格道路 境港出雲道路

松江北道路だより

瓦版
平成30年9月
第8号

1. 地元説明会を開催しました

平成30年7月16日～7月24日に、生馬・古江・持田・川津・法吉・城北の6会場にて、松江北道路に関する地元説明会を開催し、296名の方にご出席いただきました。説明会では、検討したルート（道路計画）案、これまでいただいたご意見への対応状況、今後の進め方等についてご説明しました。

この瓦版では、地元説明会で説明した内容や出席された皆さまからいただいたご意見・ご質問とその回答、今後の予定についてご報告します。

上記説明会の他に農業関係者、事業所、自治会未加入者、関係者の方を対象とした説明会も実施しました。（参加217名）

生馬会場（参加75名）



平成30年7月16日 生馬公民館

古江会場（参加72名）



平成30年7月17日 古江公民館

持田会場（参加54名）



平成30年7月18日 持田公民館

川津会場（参加39名）



平成30年7月21日 川津公民館

法吉会場（参加41名）



平成30年7月23日 法吉公民館

城北会場（参加15名）



平成30年7月24日 城北公民館

2. 地元説明会での主な説明内容

松江北道路は境港出雲道路の一部として、また松江市の外環状道路の一部として、松江だんだん道路を経由し山陰道へのアクセス性向上に伴う物流の効率化、市内へ流入する交通の分散化に伴う渋滞の緩和等により地域の発展に貢献することを目的とした道路です。

松江市内道路ネットワークの現状と課題

- 交通渋滞
- 災害・緊急時への備え
- 山陰道への接続
- 宍道湖・中海圏域の連携（観光振興）



▲交通渋滞の様子（松江市春日町）



▲H18年7月豪雨による浸水被害（JR松江駅前）



▲松江JCT（山陰道・松江だんだん道路）



松江北道路（外環状道路）による課題解決

①交通分散機能

- ・市内中心地へ向かう交通を分散
- ・経路選択の幅が広がり、渋滞する交通を分散

・市街地の渋滞を緩和

②非常時の迂回機能

- ・災害事故時の迂回路
- ・速やかな迂回が可能

・国道431号（現道）と並走し、迂回機能を確保

③バイパス機能

- ・通過交通を排除することで渋滞を緩和

・12分程度の時間短縮（起点～終点）
・定時性の確保

松江北道路 ルート案



ルートの基本方針

●: 地域からのご意見 ●: 公共事業として配慮すべきこと

- ① 走行しやすい道路線形とする。 ●●
- ② 社会環境上配慮する必要がある文化財、神社・寺院、住宅団地、主要公共施設を極力回避する。 ●●
- ③ 自然環境への影響を極力低減することを念頭に地形の改変を極力少なくなるよう配慮する。 ●●
- ④ 橋梁及びトンネル等の構造物や残土、不足土量が少なくなるよう可能な限りコスト縮減に努める。 ●●

上記①～④について利便性・安全性・経済性等を総合的に勘案したルートとする。

道路構造形式の基本方針

●: 地域からのご意見 ●: 公共事業として配慮すべきこと

(1) 山地部

- ① 地形に合わせ、切土及び盛土構造を基本とする。 ●●
- ② ただし、近接構造物及び重要な文化財に影響がある場合や、山が高い場合はトンネル構造とする。 ●●

(2) 平地部

- ① 残土の有効活用及び、構造物の今後の維持管理を考慮し、盛土構造を基本とする。 ●●
- ② ただし、川、道路及び鉄道を横架する箇所、市街化が進行している箇所、細い谷を盛土構造にすることで排水等の懸念があると考えられる箇所については、高架構造とする。 ●●

(3) 機能復旧（機能回復道路）

これまで有していた道路機能等の機能回復を図る。 ●●

3. 地元説明会で寄せられたご意見・ご質問とその回答

ルート案について

◆ どのような考え方でルート選定を行ったのか？

地域の皆さまからいただいたご意見や公共事業として配慮すべき点などを踏まえたルートと道路構造形式の基本方針を定め、利便性・安全性・経済性等を総合的に考え、ルート選定を行いました。

◆ 家屋に影響する道路計画は賛成できない。

ルートと道路構造形式の基本方針に基づき計画しましたが、やむを得ず影響する家屋が生じています。

道路構造について

◆ 地域を分断しないためにも盛土ではなく、高架の部分を増やしてほしい。

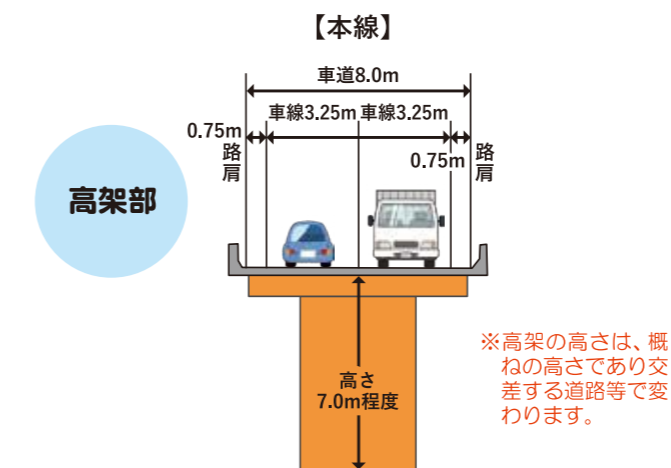
◆ 水害が発生したときのことを考えると、盛土構造により被害が大きくなるか心配。

経済性なども踏まえ盛土構造を基本としています。今後、地域の皆さまと相談させていただきながら、機能回復道路などの整備を検討していきます。

水害対策については、排水計画を今後継続して検討します。

◆ 高架や盛土の高さはどの程度になるのか？

高さは場所によって変わりますが、地盤から松江北道路までの高さが、高架と盛土いずれも7m程度になる見込みです。



◆ 中央分離帯は必要ではないか？

自動車専用道路ではなく、一般道路として計画していることから、中央分離帯は設置しない計画としています。

乗り降り箇所について

◆ 立体交差点の大きさは、どの程度になるのか？

現地の地形によって変わってきますが、道路幅は全体でおよそ50m、高さは7m程度になる見込みです。現在供用中の松江だんだん道路の西尾インターチェンジと似た形状を計画しています。

◆ 交差点に信号は設置するのか？

信号の設置については、今後継続して公安委員会と協議を進めます。

◆ 立体交差と平面交差はどのような考えで分けているのか？

交通量が多く、立体交差でないと交通処理ができないと見込まれる川津乗り降り箇所を立体交差としています。

また、西生馬と西持田の乗り降り箇所は、延長が長くトンネルもある区間の両端に設置することから、自転車などの誤進入防止を図るため、立体交差で計画しています。

環境への影響について

◆ 騒音や振動などの対策をきちんとしてほしい。また、対策を具体的に示してほしい。

騒音や振動なども含めた環境影響評価については、松江北道路環境影響評価検討会を発足し、各種調査を基に影響評価の検討を進めています。検討結果については、追って情報を発信していきたいと考えています。

農地への影響について

◆ 農地を斜めに横断している箇所があるが、道路を農地に対して平行に計画することはできないのか？

ルートの基本方針に基づき、利便性・安全性・経済性等を総合的に考え、ルートを計画しています。その中で、やむを得ず農地を斜めに横断する箇所もあります。